私たちは安心安全でワクワクする食文化を提案し続けます

株式会社 やまやコミュニケーションズ(株式会社 辛太郎本舗)

〒813-8568 福岡市東区松島5-27-5 TEL 092-611-4511 HP https://www.yamaya.com/corporate/

食料品製造業 従業員数 876名 資本金 10,000万円

内容

進化する伝統。九州の食文化を世界へ

1974年に創業。スケトウダラの良質な魚卵「真子」の買付け、塩蔵液を用いた「たらこ」熟成、 「独自の漬込み液」で旨みを加える「明太子」作りまでの一貫製造力と、国内外多岐に渡る チャンネルを通じた販売力が強み。

お土産やギフト用として好調な「辛子明太子」に加え、近年は「もつ鍋」も主力に。



◎ 改善成果のポイント

訪問支援回数 | 11 回(支援期間:12カ月)

- ●たらこの「熟度」「グレード」「重量」を自動で選別し省人を実現
- ●熟練が必要な「洗浄」「揉み」「異物除去」を統廃合しスリム化





くしょう どんな困りごと(課題)がありましたか?

お土産やギフト用の価値の高い明太子はほとんどを人手で生産しています。

創業以来培ってきた漬込みと熟成の手法に加え、高価な商品をていねいに作り込 む熟練作業者の育成、高い品質管理手法の導入を進めてきた結果、お客様に選んで 頂き、おかげ様で売り上げは年々増加しています。

一方で、従業員の高齢化が進み退職者が増える中、熟練した働き手がなかなか育 ちません。そこで、工程の一部については、他の食料品製造システムをベンチマーク するなどして自動選別システムの開発に取組み、ようやく導入の目途が立ちました。

今回、グループ企業である株式会社辛太郎本舗を対象に、これらシステムの導入 を実現すべく、手狭な工場のレイアウトや生産方式を見直し、更に残る手作業も大き く効率化することを決定しました。より競争力の高い工場づくりを目指し、アドバイ ザーの支援を受けることにしました。

課題 (1) (3) (4)



熟練した原卵洗浄、揉み、異物除去作業



改善前の作業工程と課題



■ 改善の取組み内容を教えてください

工程編成、作業、物流レイアウトを分析、問題点を洗い出しました。

まず、全ての原卵を加工して最後に選別する今のやり方では、高価な熟成液(塩蔵 液)の使い方にムダがあるため、設備メーカーと開発した熟度選別機を導入して、副 資材費と工数低減を計画しました。

次に、熟練作業が必要な原卵洗浄・揉み・筋など異物除去の3工程は、これまで一 工程ごとの完結作業で行っていたため、都度、商品バットから取出し・作業後に投入、 それらを中間在庫として保管していましたが、それは「付加価値を生まない作業」で す。そこで作業のやり方を変え、これら3工程を一連の流れにしました。その結果、作 業の効率化と省スペース化が実現しました。

そうして空けたスペースに、開発してきた「重量とグレード選別」「熟度選別」各シ ステムを順にトライ、導入し、更に大きな省人が短期間に実現できました。



熟度選別機からでてきた原卵



グレード選別機を下流側から見た全景



取組んで良くなった点を教えてください

メインの 効果 (改善点) 個々の取組みについて以下、期待以上の効果が得られました。

- ・塩蔵液の副資材購入費を20%以上低減しました。 ・手作業工程の編成変更により作業者を21人から17人(-4人)、20%以
- 上低減できました。
- ・自動システムの導入により当該作業を更に30%低減しました。
- ・これらの取組みを順序良く進めたことにより、短期間、限られたスペース で大きな改革を着実に実現できました。

(設備導入にあたり、国と県の生産性向上補助金を有効活用)

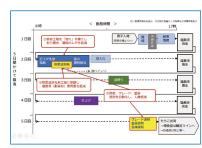




中間在庫のムダを省き、流れで商品を作ることのメリットを体感できま した。また、シンプル・スリム・コンパクトで柔軟性の高い工場づくりの見 方、考え方を現場の作業者、リーダー、管理者みんなが学ぶことができた ように思います。



更なる需要拡大に向け、新工場の建設を現在構想中です。 今回できたこと、できなかったことを振り返り、更なる品質向上、低コス ト、変種変量への弾力性を高めた工場を実現します。



改善後の作業工程と効果

企業様の声

今後も人材不足が進展する中、システム導入を更に進め ないといけません。今回のように、良いシステムの開発 と同じく、現場で起こっていること、作業と商品の流 れやレイアウトと生産の仕掛け方などをしっかり見 つめ、改善していくいい機会になりました。



株式会社 やまやコミュニケーションズ 土谷 善隆 様

生産性アドバイザーから一言

「明太子の品質を保証するためには一つ一つ の工程を完結しなければいけない」という思い 込みを、もう一度原点に返って「良品条件は何 か?」と精査した結果、「3工程を流れで生産しても問 題ない」ことがわかった後は、積極的に改善を進めて

今回の活動の成果につながりました。 今回の成果を新工場に移植して「業界-の工場」の実現を期待しています。

